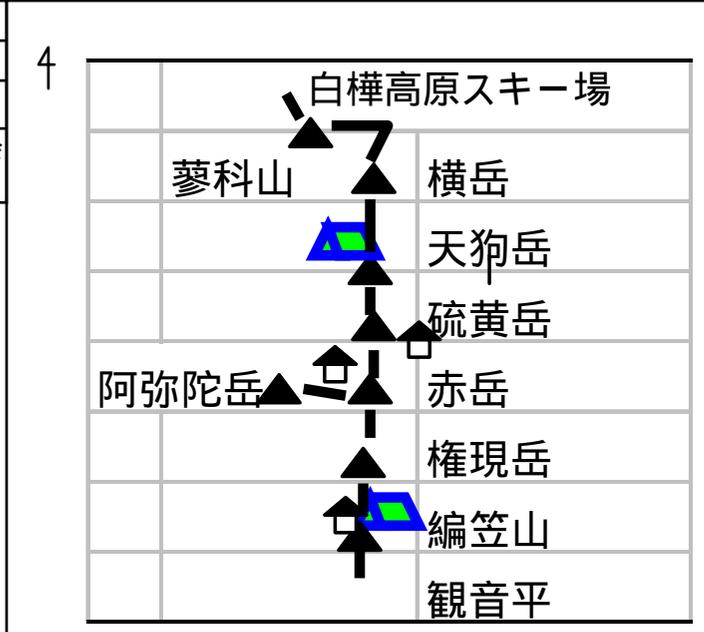


5 月度		山行報告書		報告者	亀山	参加 メンバー	L 亀山
				報告日	5 / 17		
山 域	八ヶ岳連峰	山行日	06年 5月1日～3日				
山 名	八ヶ岳						
山行目的	残雪期 八ヶ岳 縦走			コースタイム(天候:天気図記号)			

配布先
集会:10
山行L:1
原紙:集会
担当者



5月1日(晴れ)	23:15 岡崎
13:15 JR小淵沢	
13:45 観音平	
16:00 青年小屋	
5月2日(雨)	
5:00 出発	
5:30-6:00 青年小屋避難	
11:00-11:40 赤岳	
14:15 硫黄岳	
17:10 黒百合平	
5月3日(晴れ)	
4:10 出発	
5:25-5:35 丸山	
10:00 北横岳	
12:30-12:45 大河原峠	
14:30-15:00 蓼科山	
17:00-17:15 蓼科牧場	
18:15-18:26 白樺湖東口	
19:30 JR茅野	

山行報告/1(月)鹿島槍ヶ岳の春山合宿を終え、メンバーに車でJR信濃大町駅まで送ってもらい、一人小淵沢へ向う。 観音平でタクシーを降り青年小屋を目指し歩き出す。 数パーティーの下山組とすれ違いながら、押手川より編笠山を東へ巻いて直接青年小屋へ上がる。 近くの樹林帯へ入り雪面をならしツェルトを吊るし中へ潜る。 少しのホット焼酎を飲みながら夕飯を済ませ早々に横になる。軽量化の為シュラフはなしである。

5/2(火)4時起床、5時に出発すると、合わせたようにポツリポツリと雨が降り出し、15分ほど歩くと頭上で雷鳴が轟く。 すぐに青年小屋まで引き返し非難する。 雷鳴が東方へ遠ざかったので小雨と霧の中一人歩きます。 さほど苦もなく権現小屋へ着く。 小屋は営業しており、6名の方が宿泊(下山準備中)されていたようだった。 小屋のご主人にキレット付近までの縦走路の情報を得る。 確かに長い鉄梯子を降りてからの雪のトラバースは今にも崩壊しそうで良い気分ではなかった。 キレットを過ぎ上りに掛かると、再び雷鳴の奇襲に遭う。 樹林帯まで駆け戻り、稜線を外して潜む。(ピッケルとザックはとおざける) いよいよ主峰赤岳の登りである。 岩にへばりついた雪と氷にアイゼンを利かせながら慎重に体重を移す。 緊張が走る。 一歩々高度を上げ赤岳の頂に立つ。 相変わらず霧で視界が利かない。 赤岳頂上小屋のストーブにて冷えた身体を温めながらゆっくり休憩する。 地蔵尾根からの下山も少しは考えたが、風ばさほど強くは無かったので、予定通り北への縦走を続行する。 横岳付近では思ったより積雪があり、クザリなども雪に埋もれ、今にも雪崩そうな雪壁のトラバースも強いられながら、なかなか緊張する。 黄岳を越えると

確認	亀山 06.05.17
作成	亀山 06.05.17
所見	



5 月度		山行報告書		報告者	亀山	参加 メンバー	L 亀山
				報告日	5 / 17		
山 域	八ヶ岳連峰	山行日	06年 5月1日~3日				
山 名	八ヶ岳						
山行目的	残雪期 八ヶ岳 縦走			コースタイム(天候:天気図記号)			

配布先
集会:10
山行L:1
原紙:集会
担当者

4 三ツ岳より 八ヶ岳(天狗岳・硫黄岳・赤岳・阿弥陀ヶ岳)



5月1日(晴れ)
13:15 JR小淵沢
13:45 観音平
16:00 青年小屋
5月2日(雨)
5:00 出発
5:30-6:00 青年小屋避難
11:00-11:40 赤岳
14:15 硫黄岳
17:10 黒百合平
5月3日(晴れ)
4:10 出発
5:25-5:35 丸山
10:00 北横岳
12:30-12:45 大河原峠
14:30-15:00 蓼科山
17:00-17:15 蓼科牧場
18:15-18:26 白樺湖東口
19:30 JR茅野

23:15 岡崎

山行報告 ンを目標に歩き、硫黄岳を乗越す。 根石岳・天狗岳を越え中山峠へ辿り着く。
黒百合平へ少し下った樹林の間の雪上にツエルトを吊るし、潜り込む(17:30)。
5/3(水)寒さに耐えかね2時に起きる。 ツエルトの内側はは霜で真っ白である。まるで冷凍庫、半乾きの衣類も冷えを増進させ殆ど眠れなかったようである。 朝食を済ませ、ヘッドランプを点け歩きだす。 見上げると、昨日とは打って変わって降るような星空であり心は弾む。 北八ツの山々は殆ど樹林に覆われ起伏も差程ない。 高見石小屋で左折し丸山を越え、しばらく下り麦草峠でメルヘン街道を横切る。 茶臼山を越え、再度登りきると、巨岩の展望台に着く。昨日歩いてきた天狗岳・硫黄岳方面をカメラに収める。 けっこう積雪があり、縞枯山頂上の標識が殆ど埋まり、頭のみが見えている。 雨池峠より、雨池山・三ツ岳を経て、横岳へ着く。 なかなかの好展望であり、正面に蓼科山が迫って見える。 これより、大岳コースで双子池へ下るが、ルートが非常に分かり辛く、かなり余分に歩かされる。 双子山を越え大河原峠に着くが、かなり疲れが溜まる。 売店前にてしっかり休憩を取り、行動食も食べ、歩き出すが、積雪が多く、雪上のブッシュ漕ぎである。 幸いに軽いトレースがありルートを外すことは無いので助かる。 將軍平では10~15名の登山者と出会う。 ザックを置き、空身で豊富な残雪の急登をゆっくり登る。 計画の最終の山、蓼科山の頂に立つ。 冬があり、春が訪れる。 我、幸甚の極みなり！
將軍平にてザックを拾い、蓼科牧場へと下山する。

蓼科山より八ヶ岳を望む



確認
亀山
06.05.17

所見 年齢的にも余り無理は出来ない為、軽量化を図った。
さすがに効率的に行動できた。 しかし保温の面では結構厳しかった。 軽登山靴は防水性・保温性が低く、足の指は2日間濡れっぱなし、終わってみれば軽い凍傷と仲良しになっていた。

作成
亀山
06.05.17